

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 12月 11日

【評価実施概要】

事業所番号	0170503700		
法人名	北海ケアサービス 株式会社		
事業所名	グループホーム 北海ハウス二番館		
所在地	札幌市白石区北郷 8条 3丁目 6番 30号 (電話) 011-875-2500		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年12月7日	評価確定日	平成21年12月21日

【情報提供票より】(平成 21年 11月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年 12月 20日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	17 人 常勤 15人、 非常勤 2人、 常勤換算 15.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費:18,000円	
敷金	有(円) 無		暖房代:9,000円(11月~3月)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(72,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

(4) 利用者の概要(11月 10日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護 1	3 名	要介護 2	9 名		
要介護 3	4 名	要介護 4	2 名		
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 83.2 歳	最低	72 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新札幌聖陵ホスピタル、さくら歯科クリニック
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

北海ハウス二番館は木目を基調とした和風造りの建物で、木製の使いやすいカウンターテーブルやベンダが配置され落ち着いた雰囲気である。利用者は工作や縫物、花の世話、絵手紙など各自趣味の活動を楽しんでいるが、木工の飾り物や野菜の保管箱などの作品は素晴らしい出来上がりで、職員の手作りの表札とともに事業所内を明るくしている。管理者の指導のもと、ケアサービスを充実させるためにアセスメントシートを3ヶ月に1度見直して介護計画に反映させており、職員は利用者の個性に合わせた対応を心掛け、ゆったりと優しく日々のケアを実践している。また大正琴やアロマセラピーなどのボランティアの定期的な訪問も受けている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	評価の意義の理解、運営推進会議の開催回数・広報発行回数を増加するなど前回評価での改善課題には積極的に取り組み改善を図っている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価については、ユニットごとに職員の意見を聞きながらリーダーが中心になって整理し、管理者がまとめ上げた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議の議題は、現状では活動報告が中心であり開催回数もまだ少ないので、今後は、地域の方に災害時の協力を依頼していくなど地域関連の内容を充実させる一方、参加者にも有益な情報を提供するなどの工夫を期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	重要事項説明書に外部の苦情受付機関について連絡先を明示し、玄関には意見箱を設置しているが今までに利用されたことはない。意見箱の横に備え付けられている用紙を×式にするなどの工夫や簡単なアンケートの実施などを工夫して、家族等の意見や不満などを吸い上げられる取り組みに期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会の夏祭りなどの行事に参加しており、敬老会の演芸会にも誘われている。大正琴のボランティアも3ヶ月に1度定期的に訪問してくれる。日常、近所の商店を利用しているので、声をかけてもらっている。近所の散歩では、漬け物シーズンになると利用者の方から近所の方に声をかけ、漬け方を指導して喜んでもらう場面もある。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスを意識した上で運営理念を掲げているが、現状の理念をさらに職員が理解しやすく身近なものになるよう、運営理念に加えてケア理念を作成することを検討している。		現状の理念をさらに職員が理解しやすく身近なものになるようケア理念の作成を検討中とのことであり、取り組みに期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念は、玄関や各ユニットの居間からも見えるスタッフ作業スペースに掲げられ、日常のケアの指針として、機会あるごとに管理者が職員に内容を確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の夏祭りなどの行事に参加しており、敬老会の演奏会にも誘われている。大正琴のボランティアも3ヶ月に1度定期的に訪問してくれる。日常、近所の商店を利用しているので、声をかけてもらっている。近所の散歩では、漬け物シーズンになると利用者の方から近所の方に声をかけ、漬け方を指導して喜んでもらう場面もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	同法人運営のグループホーム合同の勉強会と各ユニットごとのフロアー会議で自己評価・外部評価について説明・指導をしている。前回の外部評価についても改善への取り組みが行われ、今回の自己評価については、ユニットごとに職員の意見を聞きながらリーダーが中心になって整理し、管理者がまとめ上げた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の議題は、活動報告が中心であるが、地域内には同法人運営のグループホームを含め複数の事業所があり、町内会役員や地域代表は頻りに運営推進会議に参加しなければならないなどの課題があるため、運営推進会議の開催回数は現状では4ヶ月に1回に留まっている。		同法人の事業所との日程調整を図り、運営推進会議の2ヶ月1回の開催を目標とする取り組みを期待したい。また、地域の方に災害時の協力を依頼していくなど地域関連の内容を盛り込む一方、参加者にも有益な情報を提供していくことを期待したい。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市・区の担当者には機会のある都度運営上の相談をしている。また、管理者会議の際にも情報交換をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の訪問は比較的少ないが、訪問の際は利用者の日々の暮らしや健康状況を報告している。家族等宛に金銭出納明細書と領収書を毎月郵送しているが、お便りやポストカードなどの発行は現状では3～4ヶ月に1度である。今年、新たに広報係を選出、毎月の広報発行を検討している。		毎月の広報発行を検討しているとのことであり、その取り組みに期待したい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に外部の苦情受付機関について連絡先を明示している。玄関に意見箱を設置し、白紙の用紙が備え付けられているが、今までに利用されたことはない。		意見箱の横に備え付けられている用紙を×式にするなどの工夫や簡単なアンケートの実施などを工夫して、家族等の意見や不満などを吸い上げられる取り組みに期待したい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	前年度までは派遣社員が勤務していたため短期間での職員の交代もあったが、現在は改善されている。ユニット間で職員の定期異動はなく、職員には特に担当を決めずどの利用者にも同じように対応する仕組みなので、職員が退職しても利用者のダメージは少ない。新人が入社した際は、徐々に親しんでもらうよう関わりを少しずつ多くするようにして馴染みの関係を作っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人で内部研修を行っており、毎月各ユニットごとのフロアー会議の際にも勉強会をしている。また、外部研修には毎年全職員の6割以上が参加している。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者は、毎年1、2回は他のグループホームの見学をするなど同業者と交流している。また、介護事業者協議会に加入しており、毎年2名程度の職員が協議会の研修に参加し、同業者との交流を通じてサービスの質の向上に活かしている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前には、必ず本人及び家族等にホームを見学してもらうようにしている。利用開始後は、食事の席を工夫したり管理者やリーダーが他の利用者との関係をとりにつなど馴染みやすい環境を作っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者から社会生活上の習わしやしきたりなど様々な知識や食材を無駄にせず利用する方法などの生活の知恵を教わる機会が多い。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>					
<p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者との日々の関わりの中で、利用者のペースや行動から一人ひとりの思いや意向について把握しようと努めている。また、利用者の生活歴や嗜好についてもセンター方式のアセスメントシートを用いて把握している。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用開始時に詳細なアセスメントを行った上で介護支援専門員が計画の原案を作成し、職員の気付きやアイデアをもとに家族等からの情報や意見を聞きながら、管理者が最終的にまとめ上げている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は基本的に6ヶ月ごとの見直しであるが、利用者の状態に変化が生じた場合は必要に応じて見直ししており、その際は家族等に説明して署名・捺印をもらっている。また、アセスメントシートを3ヶ月に1度見直して介護計画に反映させている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>月に1度の訪問理美容や2週間に1度の協力医療機関の訪問診療がある。また、同経営のデイサービスへの通所支援を行っている。また個別の買い物への付き添いやお墓参りやお盆などで送迎の支援を行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関の訪問診療が定期的に行われており、提携医療機関以外のかかりつけ医の受診も自由に行える。医療情報は家族等と共有している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化や終末期に向けては、「終末期及び生活支援に関する覚書」「医療連携に関する同意書」などの書類を用意し、利用開始時に家族に説明して署名捺印をもらっている。また、職員間でも方針を共有している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人の記録は所定の場所で管理している。トイレなどの誘導時にはプライバシーを損ねるような表現はしないようフロアー会議でも注意している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>起床・就寝・食事の時間など一定のルールはあるが強制ではない。利用者各自のペースに合わせてながら柔軟に対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者も職員と一緒に食材の買い出しや調理、後片付けを手伝いながら職員と一緒に食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日14:00頃～17:00位までの時間帯で入浴が可能であり、希望すれば夜間の入浴も可能である。最低週2回を目標に入浴してもらっているが、夏場は毎日入浴する利用者も多い。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意ごとを把握して調理、後片付け、モップがけ、洗濯物たたみなどを受け持ってもらっている。また、工作や縫物、花の世話、絵手紙など各自の趣味の活動を支援しているが、特に工作の得意な利用者が作った作品は重要なインテリアとなっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏場は、希望者はほぼ毎日外出している。冬場は週1回程度、大型ショッピングセンターに車で行き買い物などを楽しんでいる。月1回外出行事を企画したり、通院の帰りに個別に外食したりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所の建物が交通量の多い幹線道路に面しているため、安全面から施錠している。夏場で、職員が庭に出ていたりなど注意できる状態の時は極力解錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、消防署からの指導を受けながら避難訓練を実施している。夜間想定については講義は受けたが実際の訓練は未実施である。職員の救急救命訓練はまだ受講していない。		今後は救急救命訓練の定期的な受講を期待したい。また、運営推進会議において地域の方に災害時の協力を依頼していくことが期待される。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮しながら、利用者の体重を目安に摂取カロリーと水分摂取量を把握し支援している。栄養に関するアドバイザー資格を取った職員もいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は木目を基調とした和風の造りで、居間や廊下には季節の装飾が施され、利用者が作った作品が飾られている。居室ドアには職員が手作りの親しみやすい表札がかかっており、全体に上品で明るく居心地の良い空間となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の使い慣れた家具や馴染みの物が用意され、安全で安心できる生活の場となっている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。